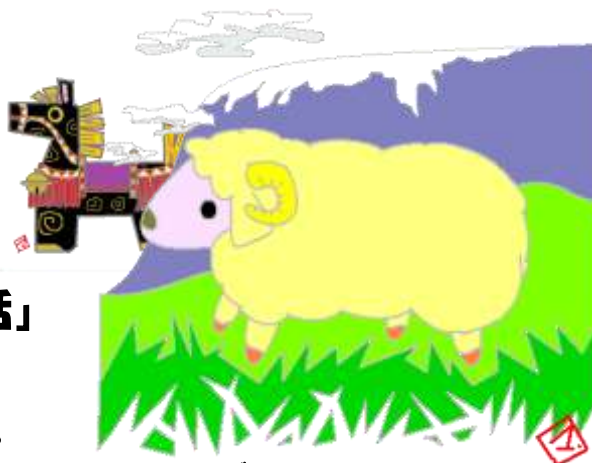


【学校便り H26 1月】

「おかげさまとありがたいの話」



新年明けましておめでとうございます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は80周年の年。皆様のお力をおかりして多くの課題を乗り越えてくることができました。年も午（うま）年から未（ひつじ）年に移り、やわらかなでも強い心の子どもたちを育てていきたいものです。

さて、昨年の12月の月曜朝会で次のような話をいたしました。

——— 今日とは毎年12月になると話すお話、「おかげ様」と「有り難い」の話をしませう。

先週、「連合音楽会」と言って杉並の小学校の5年生が集まって、演奏したり、歌を歌ったりする演奏会に、雨の中を荻窪の杉並公会堂まで行ってきました。皆さんも聞かせてもらった5年生の歌と演奏です。

桃五小の5年生は、気持ちを込め、心を一つにして素晴らしい歌声と演奏を響かせてきました。自分の学校をほめるのも何ですが、とっても素晴らしかったです。内緒だけど一番素敵だなあ、と思いました。

そして、雨の中を学校まで帰って、「頑張りましたね。お疲れ様。」と、挨拶をしてみんなが教室へ戻り、私も職員室に戻ろうとすると、男の子が二人追いかけてきて、「校長先生、ありがとうございました。」と、精いっぱい気持ち良く挨拶してくれました。何だかとっても嬉しくて元気の出る素敵な気分になりました。「ありがとう」、「ありがたい」、って思える人は素敵だなと思いました。そして、あるおじいさんのことを思い出しました。

もう10年も前に亡くなられた方ですが、お元気だったら、今一番会いたいおじいさんです。そして、12月になると、このおじいさんのことを思い出します。

この方は、いつもお会いすると、「おかげ様でね。」「有り難いことだよ。」という言葉が口癖で、いかにもありがたそうに優しくお話しなさる方でした。

おかげ様でいい天気。おかげ様で大根が大きくなった。おかげ様で元気でいられる。

おかげ様で。おかげ様で。有り難い事だよ。

こんなふうに、いつもいつもお礼を言っているようにみえますが、このおじいさんは決して人のお世話になっている人でも、人に助けられてばかりいる人でも、ありません。それどころか、逆に人のことをいつも心配して、いつも人

の手助けをして、どんな人でも困っていればその人の相談にのり、一緒に悩み、自分のできることは何でもやってあげる。自分のことだけでも忙しいのに人のことを先にやってあげる。そんな、おじいさんなのです。

そう、このおじいさんはいつも人に感謝する気持ち「有り難い」という気持ちを忘れない人なのです。誰かのおかげで、自分は元気で幸せにすごすことができる、「有り難い 有り難い」と、思える人なのです。

「おかげさまでね、孫の書いた習字がね、廊下に張り出されているのでね、見させていただきますよ、有り難いことに先生がよく見ていて、励ましてくれてるんでしょうねえ。孫がうちで、先生が褒めてくれたって言って大喜びですよ、おかげさんでこれまで苦手だった習字が大好きになっちゃった。おかげさまですよう。有り難い、有り難い。」

そして、そんなどんなことでも有り難いと思う感謝の気持ちがあるからこそ、近くに困っている人がいれば、黙ってその人のために精一杯のことをして助けあげられるのです。それも「当たり前でしょう。」「お互い様ですよ。」といいながら。

ところが ね、桃五小の教室を回ってオープンスペースからそっと見てみると、ありがたいの反対。「のに」、「でも」、「だって」、の人がたくさんいるのが、とても悲しいのです。

「こんなにがんばっているのに・・・。」と言い訳をしたり、いつも手助けしてくれている友だちに向かって「でも、〇〇ちゃんだって僕のこと押したもん。」と叩いてしまったり、「だって、お母さんが・・・。」と、自分のことは反省もせず人のせいにしてしまったり・・・、自分のことは反省もせず、いいわけばかり。こんなことでは、悪いところをなおすこともできないですよ。

人は皆、誰も一人では生きていけません。気づかずにいるだけで、どこかで必ず誰かに助けられているはずなのです。けれどもそのことを感じる心、「ありがたいと思う心」。「おかげさまと思う心」いつの間にか忘れていませんか。「今年1年間の自分」のことを考えてみてください。—————

こんな気持ちで今年も子どもたち一人一人を大切にしていきたいと存じます。

どうかよろしく願い申しあげます。

